

「ニイロウちゃん また会いに来てくれて嬉しいよ。」

「来ないと あの話をばら撒くつて
言うから… 仕方なく来たただだよ。」

「そんな脅したみたいと言わないでよw
なんだかんだ楽しみにしてたでしょ？」

「——ッ！ バカ言わないでっ！」



「ちよつとグリ触られただけで濡れる体の癖に
そんなに強がらなくてもいいじゃん?w」

「べ、別にそんなこと...あつ...ツ」

あ、♡

♡♡

「ほらほら、だんだん思い出してきたんじゃない?
それとも自分で毎日やってたりする?w」

「そ、そんなことしてるわけない...でしょ...んんツ...」

ぐり

ぐり

しるる...

「相変わらずでっかいクリしてんな！
ちよっと触っただけで もうむき出しじゃん」

「あなたのせいでこんな身体になったんだよ……」

「そうだったけ？」でもオナニーしてないなら
ここまでではないって 普通」

「だから、してないって言ってるじゃない」



「なら溜まってる分、今日はグリグリしてあげるよ。
お前グリいじられるの好きだったもんな」

「好きなんかじゃ……。あつ、ももつと ゆっくり……。」

「そんなこと言って 軽くイってるじゃんw」

「ち ちが……。あうっ、あつ お願いつ やめてっ」



「まあまあ 遠慮しないでいいよw
大好きな同時攻めで とりあえずイッてっぜw」

「ゆ 許して... それされちゃうと
私 おかしくなっちゃうー」

はっ
はっ
はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

「ほら イケ イケっ！」

「あっ いやっ、
これ以上は...
~~~~ッ！」

らめ お願い



あーっ  
あーあ  
あーあ  
あーあ  
あーあ

はっ♡

はっ♡  
はっ♡

(ダメ…完全に私の身体  
理解されちゃってる…)

「これこれw お前 本当に  
簡単にイクよなw」

10  
1/2

ん  
ん  
ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん  
ん  
ん

「でも 指だけだと満足できないよな？」

「もう…十分 満足したよ…」

「あれ？w 満足はしてるんだ？w  
それじゃあ もっと満足させないとな」

（あれ…私 何言って…）



「ニイロウちゃん 何がほしいか言ってみようか」

「ーッ！ な、何も いらないもんっ」

「ふん どうせ後でよがり狂うくせにW」

「う うるさい…… するなら  
はやくしてよ……」



「やっぱ いいまの」してるわ」

「こんなのと毎日できるあの旅人が羨ましいな」

「彼は そんな人じゃ… あっ、ん… ない…」

ふっ♡

ざっ♡

ふっ♡

おっ♡

ふっ♡

「もしかしてまだヤラせてないの？w 拾った宝は全部あげて  
肝心なものあげてないとか ひどい女だなw」

（やば… この形… 私もう  
止まらなく なっちゃうかも…）

グッ♡

ぐちゃっ

ハース

「いい感じに出来上がってきたな」

「もっと♡ もっと奥の方グリグリして♡」

んっ♡

ぐほっ  
ぐほっ

ぐほっ

「すっかりン淫乱じゃんW  
お前が好きなのここたる？W」

んっ♡  
おめ♡

「うん、これしゅき♡ ほんとはずっと  
これシテほしかったの♡」

ハース

ハース

ハース

「おいおい 勝手にイツてんじゃねえぞ！  
これはなかだし確定だな！w」

「イツちゃうの とまっ……なら……の♡」

おほい♡

おほい♡

おほい♡

NO

すほ

ぬちゃ

すほ





「久々にめっちゃ出たわ」

「ニイロウちゃんさえ良ければ2回戦目いくか」

「どうせ嫌って言うてもやるよね？」

「ま そうだけどなw  
二度と俺の以外でイケないくらいヤルぞ」

「なるわけ… あっ…♡ そんな急にいれ…  
んっ…!! だめっ ああッ♡」

「ほおお…」

























